

# 令和6年度 きたごうこども園

## 令和6年度 小山町立きたごうこども園評価「自己評価書」

令和7年3月

### 1 教育・保育目標

「金太郎のように心豊かでたくましい子」  
 かんがえる子 やさしい子 げんきな子

### 2 園重点目標及び具体的方策

|       |  |
|-------|--|
| 園重点目標 | 「自ら遊び、学べる子の育成」   |
| 具体的方策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの主体性及び自立性を育む教育・保育を基本とし、「生きる力の基礎」を培えるような保育を心がける。</li> <li>・ 乳幼児一人一人の思いに寄り添い、応答的対話的なやり取りをする中で、その子なりの特性や発達する姿を保障する。</li> <li>・ 身近な人や物・事とのかかわりを大切に、直接体験をとおした創意ある保育を展開する。</li> <li>・ 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した保育の展開や振り返りの積み重ねをし、発達や学びの連続性を図る。</li> <li>・ 園児・保護者・保育者（職員）・地域（小中学校を含む）との連携を図り、教育効果を高める。</li> </ul> |

### 3 項目別評価

| 評価項目      | 項目別評価 | 評価の理由  | 職員アンケート結果 | 保護者アンケート結果 |
|-----------|-------|--|-----------|------------|
| 園目標・教育目標  | A     | 保護者への周知に関しては高い評価を得た。職員は園目標や重点目標を踏まえた保育の展開を心掛けている。  | B         | A          |
| 保育計画・教育課程 | B     | 保護者からは高い評価を得たが、園児の実態に応じて見通しをもった指導計画を立てているものの、職員間の共有ができていないという課題が挙げられた。                           | B         | A          |
| 保育指導      | B     | 保護者からは、職員の対応について高い評価を得たが、子ども自身が自分の気持ちを発信する力が弱い等、項目の内容によって評価に偏りが見られた。職員は、保育の環境構成や指導力における課題が挙げられた。 | B         | A          |
| 研修        | B     | 園内研修では、園内公開や日々のカンファレンス等の十分な時間の確保が難しかったが、リーダーが中心となり計画的に進め、充実した研修ができた。                             | B         | /          |

|            |   |  |   |   |
|------------|---|--|---|---|
| 特別支援教育     | B | 支援計画の見直しや、職員間で長期的な視点で話し合うことが不十分であったという反省がある。その一方で、ケース会議を定期的実施する等し、個に応じた支援方法を探るために有意義であった。  | B |   |
| 安全管理       | B | 保護者はA評価だが、3学期は園内での怪我が目立った。点検活動を毎日実施しているが、より効果的に実施すべきである。   | B | A |
| 保健管理・食事    | B | 園児一人一人の健康状態の把握に努めており、保護者は概ねA評価であった。しかし、感染症拡大予防の点においては、対応が曖昧であるという意見があった。職員は、体調不良の園児の朝の受け入れ方が共有できないこともあった。食事に関しては、アレルギー児への対応について、園全体で共有できるよう工夫している。 | B | A |
| 組織運営・情報管理  | B | 保護者は高い評価であったが、職員は、「報連相」が十分でなく、情報共有ができないことがあった。   | B | A |
| 保護者・地域との連携 | B | コドモンを活用した保護者への情報発信や園の様子の共有はしやすく、A評価であったが、園児の保護者と個別にコミュニケーションをとることは課題がある。保護者とのコミュニケーションを図っているつもりでも、保護者から見ると伝達がうまく伝わっていない等不十分であった。                   | B | A |
| 施設・設備      | A | 職員はB評価であったが、園児がより快適かつ安全に過ごせる環境づくりを心掛けており、保護者からも高い評価を得た。  | B | A |

- (注) 1 評価表示方法「A：十分達成されている、B：達成されている、C：取り組まれているが、成果が十分ではない、D：取組が不十分である」
- 2 「職員アンケート結果」は、項目別評価用アンケートを集計したものである。
- 3 「保護者アンケート結果」は、項目別評価用アンケートのうち「わからない」と回答したものを除いて集計したものである。
- 4 「項目別評価」は、「職員による評価」及び「保護者による評価」をもとに、職員で話し合って決定したものである。

#### 4 今後取り組むべき課題

| 課題     | 具体的な取組み方法   |
|--------|---|
| 保育指導   | 園児の主体性が育まれるよう、必要な経験を保育に取り入れ、ねらいをもった保育を展開する力を高めていく。  |
| 特別支援教育 | 今年度は、定期的に研修を受ける機会があり、日々の保育の中での支援方法等について学ぶことができた。それと同時に新たな課題も見えた。また、個別の教育支援計画や指導計画を作成することがない職員もいる。経験の浅い職員、経験のある職員ともに学びながら、特別支援教育に携わる力を高めていきたい。 |

|           |   |
|-----------|---|
| 安全管理      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の園庭点検に加え、園舎内の点検も実施したい。前期の職員評価で、点検結果の情報共有が課題だったが、改善されずにいる点は早急な対応をしていく。</li> <li>・月2回の安全点検が不十分であるという実態が浮き彫りとなった。日々の保育に追われる中で、徹底した安全点検が実施できるよう表示を作成する等工夫していきたい。</li> </ul> |
| 保健管理・食事   | <p>早番、遅番時の園児の健康状態の把握や情報共有が不十分で、翌朝の受け入れに戸惑う職員が多い。体調不良の園児の受け入れについて、職員全体で共有し、同じ対応ができるようマニュアル化する等、改善方法を模索する。</p>  |
| 組織運営・情報管理 | <p>園運営を進める上で、職員の発信力を高め、基本的な「報連相」を徹底し、情報共有を図る。</p>   |

## 5 評価全体を通して（総評）

| 総合評価 | 評価の理由  |
|------|--|
| B    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 項目別評価の結果は、多くがB評価ではあるが、項目によってはA評価に近いものもあった。保護者からは概ね高い評価を得たことは、今後の保育の励みになる。しかし、職員間で話し合った結果、反省点や課題が明確となったり、保護者の少数意見も踏まえたりし、総合的にB評価とした。今年度の反省を次年度に生かせるよう、改善策や工夫できることを園全体で考え、保護者も職員も居心地のよい温かい園づくりに努めたい。</li> <li>・ 保護者（家庭）と園（職員）、職員同士の関係性において、どちらも『共有』がキーワードであると感じた。日々、園児のことを一番に考えて保育をしているが、職員間の連携や情報共有の面において、課題が多かった。保育経験や保育観も多様であることは当たり前であるので、お互いを尊重しつつ、園児のために“語り合える”関係性を築けるように努めたい。また、保護者に対して、個々の姿や育ちについての園からの発信力が弱い。ICT化されたことで効果的な点もあるが、コドモンの活用や園からの情報伝達について見直し、よりわかりやすく伝わりやすい発信方法を模索し、保護者との共有、連携を深めていきたい。</li> </ul> |